

市民栄誉賞

市民に希望と活力を与え、広く市民から敬愛され、本市の誇りとなる顕著な業績があったものに贈られる『市民栄誉賞』。

受賞された方々の栄誉をたたえとともに、各分野で活躍されている4人をご紹介します。



「書家」

鈴木 赫鳳



書に囲まれて成長し、父である鈴木雲鳳氏と日本芸術院賞の殿村藍田氏に師事。1989年日展に初入選してから20回の入選を数え、2014年と2016年には特選に選ばれました。2023年第10回日展で審査員に就任され、翌年日展会員に。このほか、読売書法展など数々の栄誉ある賞を受賞。名実ともに著名な書家として、書道愛好家の育成・指導にあたられ、平成26年から市文化協会会長として、芸術文化振興にご尽力されています。



第10回日展(2023) 劉長卿詩

2016年市民栄誉賞受賞

「陶芸家」

下山 昌右



「創作が人生のすべて」と語る下山田昌右氏。京焼三星窯和田清氏と唐津焼中里太郎右衛門氏に師事。女性の陶芸家が少ない時代、門徒になるのも難しく、その後も過酷な修行の道を歩まれます。

1979年に日展に初入選、以後入選23回、無鑑査1回。数々の展覧会での受賞に加え、1998年日展では特選を受賞。現在は時折の個展や生徒とともに企画展示を行っています。

「野の花に心をとめ、多くの人と感動を共に平和な社会になることを願って作品を作り続けたいです」。

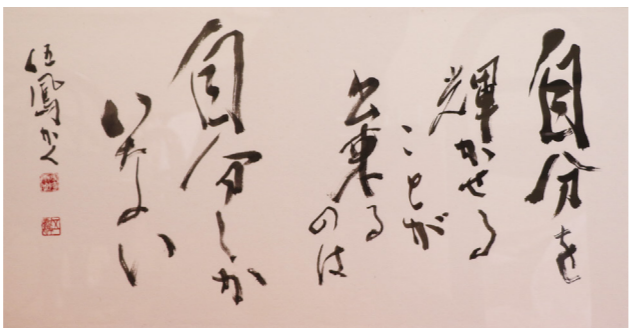


第30回日展特選(1998)『追憶』

2024年市民栄誉賞受賞

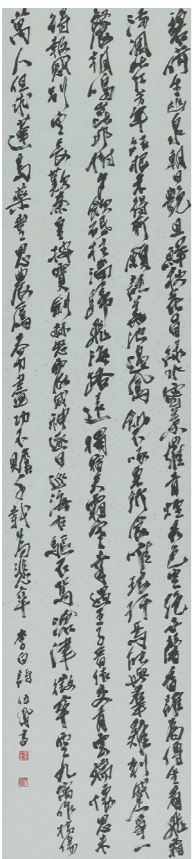
「書家」

時崎 伍鳳



社会人になってから始めた旧勤労青少年ホームの書道教室をきっかけに書の道へ。その後、故鈴木雲鳳氏と鈴木赫鳳氏に師事。30代半ばごろから数々の賞を受賞され、2014年日展から5度の入選。2021年と2023年日展において特選を受賞されました。

日展会友、読売書法会常任理事、茨城書道美術振興会常任理事、市書道連盟理事長などを歴任されています。



第10回日展(2023) 李白詩

2024年市民栄誉賞受賞